

た よ り



〒518-0814 伊賀市上友生785番地

TEL&FAX:0595(21)8839

URL:<http://www.iga.ed.jp/igaken>E-mail:iga-ken@iga.ed.jp

スマホは家庭の問題？ ～子どもの生活習慣から～

今日、スマートフォン（スマホ）の多機能化は、著しく進歩しています。

子どもの生活習慣にも大きな変化がみられます。一例を挙げれば、家庭で勉強する際、スマホを近くに置き、音楽を聴いたり、LINE をしたり、ゲームに切り替えたり、動画を見たりできます。いわゆる「スイッチング」です。一つのこと

に集中せず、割り込んできた情報などにすぐに反応し、また別に割り込んできたものがあればそちらに注意を向け、しばらくしてから再び本来やっていたことに取り組む。このような「スイッチング」の傾向が、子どものスマホの長時間使用につながっていると言われています。



伊賀市で作成している「いがっ子」～家庭学習・読書のすすめ～（中学生の巻）にも関連したアンケート結果が掲載されています。その中で、スマホやゲームを2時間以上している割合が全国より高いという結果がある一方、家で自分で計画を立てて勉強をしている割合は全国よりかなり高いという一見矛盾した結果が出ています。スマホを自分の近くに置き、勉強中もスマホのスイッチングをしている子どもの姿を想像すればこの調査結果もあり得ることと推測できます。

しかし、「スイッチング」は目の前の宿題や学習に集中しにくくなり、読解力が極端に低くなると指摘されています。そして、スマホの長時間使用やアプリの使用数の増加は、学力そのものを低下させるとの調査結果も出されています。

先月行われた伊賀市学力向上プロジェクト委員会でもこの点が話題になりました。家庭学習の大切さを考えるとき、スマホの長時間使用は大きな課題の一つです。

スマホの使い方については、家庭で約束ごとを決めて使うよう多くの学校で働きかけています。しかし、保護者は仕事や用事もあり、子どもの使用状況を把握し、日々指導するのが難しい現状です。しかも、メディアはスマホの便利さや楽しさといったメリットを子どもたちに強くアピールしています。

したがって、学校では小学校高学年から中学生にスマホの長時間使用のデメリットについて学ばせることが大切だと思います。

そして、「いつ」、「どのくらい」スマホを使うのが良いのか子ども自らルールを考える取り組みを行うことが、今学校にも求められているのではないのでしょうか。